

まだまだ まだまだ

渡 辺 圭一郎

奨励者紹介[わたなべ・けいいちろう]

日本キリスト教団香里ヶ丘教会牧師

安息日が終わると、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。そして、週の初めの日の朝ごく早く、日が出るとすぐ墓に行った。彼女たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。ところが、目を上げて見ると、石は既にわきへ転がしてあった。石は非常に大きかったのである。墓の中に入ると、白い長い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、婦人たちはひどく驚いた。若者は言った。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。さあ、行って、弟子たちとベトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる』と。」婦人たちは墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そして、だれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。

(マルコによる福音書 16 章1―8節)

『まだまだ まだまだ』

本日のチャペル・アワーでは、はじめに1冊の絵本をご紹介します。五味太郎さんの作品で、最近出版された絵本です。皆さん、子ども心に戻って、見て、聞いて、味わっていただければと思います。絵本のタイトルは、本日の奨励題と同じく『まだまだ まだまだ』です。

5人の子どもたちがかけっこをする場面からはじまります。「よーい どん!」で子どもたちは一斉に走り出します。先頭の子どもがゴール。でも、最後尾の子どもはゴールしても、「ぼくは まだまだ おわりません!」と走り続けます。町の中をかけぬけ、にぎやかなところ、ビルの間をかけぬけ……町のはずれ、畑の中、森の中をかけぬけていきます。それでも「まだまだ まだまだ」と、この子どもはかけっこを楽しみ走り続けます。そして気づくと……。 (五味太郎『まだまだ まだまだ』 偕成社 2021年)

この絵本で、私が面白いなあとと思うところは、「よーいどん!」ではじまったかけっこで、みんなゴールしたと思った後の場面です。ある男の子にとっても、この絵本自体にとっても、そこまではまだ序章だったということです。1度目のゴールを過ぎたところから、この絵本『まだまだ まだまだ』は始まります。

みんながゴールだと思ったところを、男の子は通り過ぎて走っていきます。「あれ、もう終わりですか」と。そして「ぼくは まだまだ おわりません!」と、いろいろなところを走っていきます。他の子どもたちにとっては、1位になることがかけっこの目的ですが、この男の子はいろいろなところを走ることが目的(楽しいこと)なのですね。

男の子は「まだまだ まだまだ」といろいろな場所を走り抜けていきます。読んでいる私たちも、一体どこ

まで行くのだろう……と1度目のゴールを過ぎたところから、この絵本のわくわくの中に惹き込まれます。そして気づくと、地球をぐるっと1周したのでしょいか、また同じところに戻ってきます。そうして1度目のゴールをこの男の子がもう1度駆け抜けて「おしまい!」となります。

イエス・キリストの復活

本日の聖書箇所はマルコによる福音書でした。ここにはイエスと、そして共に歩んだ弟子たちの物語が書かれています。そして本日読んだ16章は、そのイエスと弟子たちの物語の最後の章でした。このイエスという人こそが、私たちの救い主なのではないか……。そう語るマルコによる福音書では、どのような結末が待っていたのでしょうか。

この弟子たちや民衆が、「救い主」なのではないかと期待したイエス。この人こそ、ローマ帝国の支配下にあるユダヤ民族を解放してくれる、リーダーなのではないか。そう期待したイエスは、十字架刑に処せられて殺されてしまいます。みんなの期待を一身に背負ったイエスは、無残にも、そしてあっさりと死んでしまうのです。

しかし、それでマルコによる福音書は「おしまい」かというと、そうではないのです。イエスが十字架で殺されてから、3日目に女性の弟子たちが墓を訪れます。すると、墓の中にイエスの遺体はなく、代わりに若者がいてこう告げます。「あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない」。(6節)「あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる」。(7節)

この人は救い主ではないかと、信じて歩んだ弟子たちの物語。その物語は実はここで終わりじゃないよ、というのです。死をもってイエスの人生は終わった、イエスと歩んだ人生はこれで「おしまい」と思いきや、聖書は「まだまだ まだまだ」というのです。では、この後、どうなっていったのでしょうか。ガリラヤに行くと再会できたのか。その後の出来事をマルコによる福音書は記さず、ただ神を信じる人生では、この弟子たちが体験したように、死でさえも「おしまい」ではないのだということをそっと漂わせて終わります。

私は牧師の傍ら、保育園の園長をさせていただいています。その中で、年長になる子どもたちから「死んだらどうなるの」という質問を受けることがあります。「死んだらどうなるの」。それは大人だけでなく、子どもたちにとっても重大な問いなのですね。しかも大人でもなかなか十分に答えることができない普遍的な問いです。そこで保護者の方は、園長先生は牧師だから……。ということで、子どもたちが私のもとに質問に来るという次第です。

勿論、私自身も死んだことがあるわけではないので、経験的に答えることはできません。ただこの場合、聖書はどう語っているかということをお伝えするようにしています。「僕もね、死んだらどうなるのか、それはわからないんだよ。でも聖書は、死んでも、それで終わりではないんだよ……。死んでしまっても、神さまやお父さん、お母さん、お友だちや先生とのつながりは、まだまだ続くよ、って語っているんだよ。だから大丈夫」と、お伝えしています。このマルコによる福音書を読むと、ただ単に「イエスは復活した」という現象だけを伝えているのではなく、神さまを信じるということは、「死」で終わらないという人生観を受け入れることなのだよと、そう語りかけているように思うからです。

本日の聖書箇所が語りかけていると感じたメッセージは以上です。ですので、これで本日のチャペル・

アワーの奨励を終わります。

まだまだ まだまだ!

と言いたところですが、本日の奨励は「まだまだ まだまだ」です。ここまで聖書のメッセージをお伝えさせていただきましたが、最後に、本日の聖書箇所を通して、私が皆さんと分かち合いたいこと、皆さんよりも人生を少しだけ長く生きている者として、見てきた人生の風景をお伝えして終わりたいと思います。

「ああ、もう終わった」「もう終わりだ」と心底思う現実というものが、確かに人生にはやってきます。私は40歳を過ぎましたが、それでも「もうこれで終わり」「もう詰んだ」と思う人生の場面が幾度もありました。今日のこの場所には私が学生の頃、教えていただいた先生方がいらっしゃいます。大学院で共に学んだ友もいます。きっとその先生方や友も私同様「ああもうダメだ」「もう終わりだ」と思った人生の場面が、これまでにあったと思うのです。(応えるように頷いてくださった皆様に感謝。)

でも、こうして生きているってことは、それが真の「終わり」ではなかったからなのです。「ああ、もう終わった」と心底思う時も、それが必ずしも本当の「終わり」ではない、ということはあるのです。そして一見「終わった」と思ったところから、新たな道や目標(ゴール)が見いだせることも、人生ではしばしば起こり得るのです。先ほどの絵本のことを思い出してください。かけっこのゴールは、ある子にとっては誰よりも早く1番になることでしたが、ある子にとっては、さまざまなところをかけっこすることでした。必ずしも「ゴール」(終わり・目標)は一つとは限らないのですね。

皆さん、新型コロナウイルスの影響もあって、恐らく思っていたのとは違った学生生活になったことでしょう。きっといろいろな不自由さや、つまらなさ、苦労があって今日まで歩まれたことでしょう。思い通りいかない、人生がうまくいかない。でも、「それが終わり」「それで終わり」ではないということです。それは「わたし」が設定していた一つの目標「ゴール」に過ぎないのです。

神を信じる人生観をお守りとして

みなさんの人生は、よい意味で「まだまだ」です。「まだまだ まだまだ」ここからです。一見すると小さな「終わり」がたくさんあるかもしれませんが、それもまた一つの通過点です。その時、その時、また新たな「目標」、新たな「ゴール」が見えてくるものです。それこそ、神さまがいてくださるんじゃないかというくらい、「終わり」には常に新しい「はじまり」が隠れているものです。

「まだまだ まだまだ」

どうか皆さんは、他の人と同じ「ゴール」ではなく、自分らしい「ゴール」に向かって、自分らしい「人生」を歩んでください。神さまがもしいてくださるなら、きっと、その道しるべを、いつもどこかで皆さんの人生にも示してくださるでしょう。神さまがいてくださるならば、きっと「終わり」も新しい「はじまり」になるでしょう。今日お伝えした聖書が語る「神さま」がいてくださる人生観をお守りとして、歩いていってください。そしていつかまた、どこかでお会いしましょう。私もまた、走り続けていきます。